

# 忘れる日本人

THE JAPANESE, WHO FORGET

作:松原俊太郎 / 演出:三浦基

## ● 神奈川公演

2018.6.21|木|-24|日|

KAAT 神奈川芸術劇場 〈中スタジオ〉

## ● 愛知公演

2018.7.13|金|-15|日|

愛知県芸術劇場 小ホール 愛知県芸術劇場ミニセレ ミニセレ

## ● 京都公演

2018.7.18|水|-21|土|

ロームシアター京都 ノースホール



## 企画概要

黙らない。手離さない。希望なんて言葉では追いつかない。  
期待と忘却の織りなすリズムにのれ！！

この度地点は、昨年4月にKAAT 神奈川芸術劇場との共同制作作品として上演された『忘れる日本人』をロームシアター京都ノースホールにて上演いたします。

処女戯曲『みちゆき』（AAF 戯曲賞大賞受賞）で鮮烈なデビューを果たした松原俊太郎の長編二作目となる本作は、震災以降の日本社会に対する痛烈な批判でありながら、死者とともにあること、忘却についての哲学的論考を含む大作。それぞれ「椅子のない部屋」「出口の封鎖された公園」「坂の真ん中の我が家」に設定されていた三幕の原作を一幕に再構成し、ユーモアを散りばめつつ高度に抽象化された舞台は、地点の新境地を拓く作品として高く評価されました。

### [あらすじ]

粗末な紅白紐の結界によって区切られた舞台。中央に木造の猪牙（ちょき）舟。漁師・巫女（？）・サラリーマン・女子高生・お母さん・お父さん・（変な？）おじさん……。様々な日本人が現れ、奇妙な共同体は舟に乗り込む。行き場のない舟はやがて打ち捨てられ、台座を担ぎ、結界を侵して人々はさすらう。



彗星のごとく現れた俊英・松原俊太郎。今年6月には最新作『山山』の上演が同じくKAAT 神奈川芸術劇場と地点の共同制作作品として発表されます。震災以後の日本で、考え続けること、発し続けることを厭わない強さと饒舌。ノーベル賞作家・イェリネクを引き合いに出され評される日本の新たな才能との出会いに、ぜひご期待ください。

## 公演概要

### 地点『忘れる日本人』 The Japanese, Who Forget

作：松原俊太郎 演出：三浦基

出演：安部聡子、石田大、小河原康二、窪田史恵、小林洋平、田中祐気、麻上しおり

舞台美術：杉山至 衣裳：コレット・ウシャール 照明デザイン：大石真一郎\*

照明オペレーター：岩田麻里\* 音響デザイン：稲住祐平\* 音響オペレーター：今井春日\*

舞台監督：小金井伸一\* プロダクションマネージャー：安田武司\*

技術監督：堀内真人\* 宣伝美術：松本久木 制作：田嶋結菜 \* =KAAT 神奈川芸術劇場

日程： 2018年 7月18日（木）19:30  
7月19日（金）19:30  
7月20日（土）19:30  
7月21日（日）15:00  
\*開場は開演の15分前 上演時間：約90分

会場： ロームシアター京都ノースホール  
606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13  
TEL. 075-771-6051

料金： （全席自由・入場整理番号付き）  
一般 前売 3,500円 当日 4,000円  
学生 前売 2,500円 当日 3,000円  
高校生以下 1,000円

チケット発売日（10:00より受付開始）

5月9日（水）会員先行発売

5月16日（水）一般発売

取扱い ▼地点 <http://chiten.org/> 075-888-5343（平日10:00～18:00）  
▼ロームシアター京都チケットカウンター 営業時間10:00-19:00（無休・臨時休館日を除く）  
[www.e-get.jp/kyoto/pt](http://www.e-get.jp/kyoto/pt) [要事前登録]  
TEL.075-746-3201  
▼ローソンチケット <http://1-tike.com/chiten-wn/>  
TEL. 0570-000-407（オペレーター予約10:00～20:00 Lコード不要）  
ローソン・ミニストップ店内Loppi（Lコード：51380）  
演劇最強論-ing（手数料無料 チケット代のみで購入可）  
<http://www.engekisaikyoron.net/>  
▼チケットぴあ <http://pia.jp/t/> TEL. 0570-02-9999（Pコード：485-494）

主催：合同会社地点

製作：KAAT 神奈川芸術劇場、合同会社地点

共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

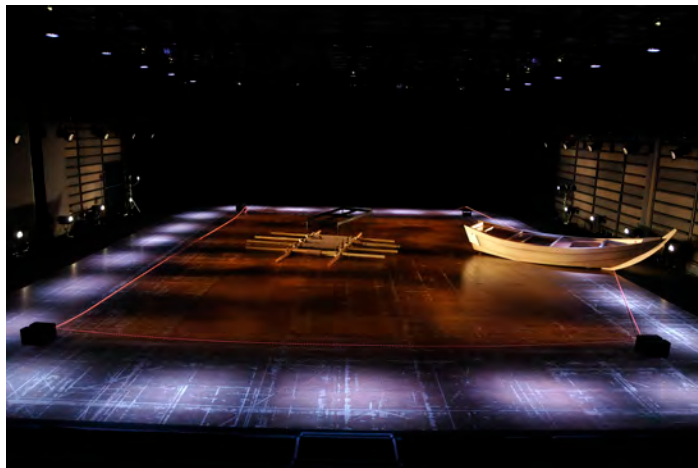
後援：京都市

## 劇評抜粋

地点の舞台には観客である自分自身の輪郭を確かに感じさせるものがある。だが、それは舞台上に自己投影できる何かがあるだとか、共感だとかいったぐいのものとは違う。矛盾するようだが、なれあいを拒むクールさも地点にはあるのだ。ではわたしたちは一体何を地点の舞台に見るのだろうか？

おそらく、地点の舞台に立ち現れるものとは、客席のわたし、もしくはわたしたちの生け捕りにされた意識のようなものなのではないだろうか。昨年上演された『忘れる日本人』はそんな発見に満ちた作品だった。本作は題名の通り、様々な忘却をめぐる作品、いや、まつりである。胸元に日の丸のワッペンを付けた七名の登場人物たちは、かつて犯した過ち、失った恋人のぬくもりなど様々なものを忘れてしまっている。しかし、誰との間に起きたどんな記憶なのかは具体的に示されない。それほどまでに徹底的に記憶から抹消されて、彼らに残されたのは「忘れてしまった」という感覚だけ。ところが舞台には悲壮感は全くといっていいほどない。そう思わせる一番の要因は、劇中しつこいほどに繰り返される「わっしょい！」という掛け声だ。

梅山いつき 雑誌『悲劇喜劇』2018年3月号「凡庸な悪に抗する思考のレッスン」



劇団地点がKAAT神奈川芸術劇場との共同制作で新作「忘れる日本人」を発表した。演出の三浦基は船を舞台装置に大胆に演出。男女七人が乗り込んだり、担ぎ上げたりして右往左往するさまから、漂流する日本人の今がシニカルなまなざしとともに浮かび上がった。

前作「みちゆき」がAAF戯曲賞（愛知県文化振興事業団主催）の大賞を受

賞した作者の松原俊太郎は、東日本大震災後の日本の針路をテーマにした前作以上に日本そのものを問い直す。三浦は膨大な戯曲のテキストの三分之一を構成。日本人の、戦後日本に対する忘却に関わる言葉を日本人役俳優が紡いでいく。物語はないに等しく、独白の言葉が次々と発せられるさまは、三浦が作り上げるオーストリアのノーベル文学賞作家イエリネクの戯曲とも相通ずる。主人公は「日本」あるいは「日本人」という集合意識ともいえる。

島国という地勢的条件の中、見えない壁や他者を内面化できず、内向きに堂々巡りであたふたしながら共同体を維持している日本。日本人を、忘れる、あるいは忘れずに拘泥することすら意識しない夢遊病のような存在として問い直す舞台だ。

井上昇治 2017年5月9日中日新聞夕刊

## プロフィール

photo: Hisaki Matsumoto

### 三浦基 Motoi Miura

1973年生まれ。1999年より2年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在する。2001年帰国、「地点」の活動を本格化。2005年、京都へ拠点を移す。2006年『るつぽ』（作：A・ミラー）でカイロ国際実験演劇祭ベスト・セノグラフィ賞受賞。2007年よりチェーホフ四大戯曲をすべて舞台化する〈地点によるチェーホフ四大戯曲連続上演〉に取り組み、第三作『桜の園』にて文化庁芸術祭新人賞受賞。2017年には読売演劇大賞選考委員特別賞受賞。ほか、2011年度京都市芸術新人賞など受賞多数。著書に『おもしろければOKか？現代演劇考』（五柳書院）。



### 松原俊太郎 Shuntaro Matsubara



作家。1988年、熊本生まれ。神戸大学経済学部卒。処女戯曲『みちゆき』が第15回AAF戯曲賞（愛知県芸術劇場主催）大賞を受賞。2017年、戯曲『忘れる日本人』がKAAT 神奈川芸術劇場と地点の共同制作作品として上演される。同年、京都芸術センター主催「演劇計画II」の委嘱劇作家として戯曲『カオラマ』 第一稿を発表。早川書房「悲劇喜劇」2018年1月号に小説『またのために』を寄稿。同年2月、戯曲『正面に気をつけろ』を地点に書き下ろし。

### 地点 CHITEN

演出家・三浦基が代表をつとめる。既存のテキストを独自の手法によって再構成・コラージュして上演する。言葉の抑揚やリズムをずらし、意味から自由になることでかえって言葉そのものを剥き出しにする手法は、しばしば音楽的と評される。これまでの主な作品に、チェーホフ作『かもめ』『三人姉妹』、ブレヒト作『ファッツァー』、イェリネク作『光のない。』『スポーツ劇』など。2005年、東京から京都へ移転。2013年には本拠地・京都に廃墟状態の元ライブハウスをリノベーションしたアトリエ「アンダースロー」を開場。レパートリーの上演と新作の制作をコンスタントに行っている。2012年にはロンドン・グローブ座からの依頼で初のシェイクスピア作品『コリオレイナス』の上演を成功させるなど、海外での評価も高い。

## 地点 最近の主な作品

2014年 **悪霊** 原作：フォードル・ドストエフスキー 翻訳：江川卓  
KAAT 神奈川芸術劇場大スタジオ

**光のない。** 作：エルフリーデ・イエリネク  
KAAT 神奈川芸術劇場ホール、京都芸術劇場春秋座  
\*KYOTO EXPERIMENT 2012 公式プログラム



『光のない。』 photo: Takuya Matsumi



『スポーツ劇』 photo: Takuya Matsumi

2015年 **三人姉妹** 作：アントン・チェーホフ 翻訳：神西清  
KAAT 神奈川芸術劇場中スタジオ

**ミス터리ヤ・ブッフ** 作：V. マヤコフスキー 翻訳：小笠原豊樹 音楽：空間現代  
にしすがも創造舎 フェスティバル/トーキョー15 公式プログラム

2016年 **スポーツ劇** 作：エルフリーデ・イエリネク 翻訳：津崎正行  
ロームシアター京都サウスホール、KAAT 神奈川芸術劇場大スタジオ  
\*KYOTO EXPERIMENT 2016SPRING 公式プログラム

**みちゆき** 作：松原俊太郎 第15回 AAF 戯曲賞受賞作  
愛知県芸術劇場小ホール

**ヘッダ・ガブラー** 作：H. イブセン 翻訳：毛利三彌  
あうるすぽっと

2017年 **ロミオとジュリエット** 作：W. シェイクスピア 翻訳：中野好夫  
早稲田大学大隈記念講堂大講堂

**忘れる日本人** 作：松原俊太郎  
KAAT 神奈川芸術劇場中スタジオ